

平成30年度地域生活支援拠点事業実績報告書

施設名 あしたば 中野学園

登録者の概要	登録者数	年度末	年度登録抹消		登録抹消者の登録抹消理由			
		20人	2人		母親死亡後GH移行(移行後3か月経過)			
		新規登録者数	前年度末		本人死亡			
		7人	15人					
	登録者数の内訳							
	障害の程度	重 度	中 度		軽 度			
	身体障害	人	人		人			
	障害の程度	重 度	中 度		軽 度			
	知的障害	6人	7人		7人			
	障害の程度	重 度	中 度		軽 度			
	精神障害	人	人		人			
	難病	人						
	発達障害	人						
	高次脳機能障害	人						
	重症心身障害	人						
年齢階層別	0～12歳	13～18歳	19～30歳	31～40歳	41～49歳	50～59歳	60歳以上	
	2人	2人	人	1人	11人	4人	人	
生活状況別	アパート・マンション等で単身で生活					13人		
	同居している家族等が高齢または長期にわたる病気					2人		
	グループホーム・生活ホームに入居					1人		
	親と在宅生活する障害児					人		
	配偶者と在宅生活する障害者					人		
	その他(具体的に) 【 例:親と同居、兄弟と同居 等 】							
	父親と子供3人世帯で、全員知的障害。					4人		
登録者への支援方法	方 法	支援実人員			支援延回数			
	電話	20人			415回			
	家庭訪問	18人			172回			
	職場訪問	2人			3回			
	来所	11人			86回			
	他機関訪問	16人			134回			
	その他	人			回			
	主な支援内容	区 分	具体的内容					
		各種相談支援	弁護士、会計士等の要請。医療機関との調整。福祉サービス利用					
		親離れ子離れの必要性の教化	家族以外の支援の構築。資源の説明。					
		対象者に関する緊急連絡先の調整	短期入所事業所、居宅介護事業所の確認					
		協力事業者による緊急連絡ネットワークの作成	区内事業所への協力依頼働きかけ					
対象者の地域における支援ネットワークの構築		小児科医や居宅事業所、学校及び自治会との連携構築						
登録者への見守り支援(訪問・電話連絡)		定期的連絡の他、適宜訪問などを行った						
その他		子育て支援						
地域資源の活用	事 例	活用できた資源(成功事例)		活用でなかった資源(失敗事例)				
	自宅ゴミ屋敷状態で入浴できず。	生活介護利用で入浴。地域包括と連携し、母親と居宅介護利用						
	母子家庭、母親疾病にて同居困難	GH併設の短期入所利用後入居						
	両親共に要介護状態	GH併設の短期入所利用		本人に大声などの問題行動あり、入所先が見つからない				
	母子家庭、母親高齢だが同居を強く希望	障害者支援施設の短期入所を一月ペースで断続利用						

緊急時の対応実績報告

対応回数	33							資料3
障害の程度	重 度		中 度		軽 度			
身体障害	人		人		人			
障害の程度	重 度		中 度		軽 度			
知的障害	14人		2人		人			
障害の程度	重 度		中 度		軽 度			
精神障害	人		人		人			
難病	人							
発達障害	人							
高次脳機能障害	人							
重症心身障害	人							
年 齢 階 層 別	0～12歳	13～18歳	19～30歳	31～40歳	41～49歳	50～59歳	60歳以上	
	人	5人	5人	5人	1人	人	人	
生 活 状 況 別	アパート・マンション等で単身で生活					0人		
	同居している家族等が高齢または長期にわたる病気					3人		
	グループホーム・生活ホームに入居					0人		
	親と在宅生活する障害児					3人		
	配偶者と在宅生活する障害者					0人		
	その他(具体的に) 【 例:親と同居、兄弟と同居 等 】					10人		
	親と同居					10人		
発 生 事 由	介護者の不在等による緊急連絡					0人		
	本人の急病等による緊急連絡					0人		
	急な予定による緊急のサービス利用					0人		
	災害等による緊急連絡					0人		
	その他(具体的に) 【 例:親と同居、兄弟と同居 等 】					16人		
	家族や家庭事情					16人		
対 応 方 法	コーディネーターの訪問により対応					0人		
	緊急連絡網の協力事業所へ連絡し、事業所の手配を実施					0人		
	電話連絡等により、本人の安否を確認					0人		
	救急車・警察等との連携を実施し、対応					0人		
	その他(具体的に) 【 例:親と同居、兄弟と同居 等 】					16人		
	本人の所属先や家族等との電話連絡で短期入所先などのコーディネート					16人		
研 修 実 施 報 告	開催回数						参加者数合計	
	日時	7月25日	会議名	市川市拠点事業検討ワーキング勉強会			参加者数	23名
	日時	8月7日	会議名	人材育成研修			参加者数	13名
	日時	11月15日	会議名	人材育成研修			参加者数	11名
	日時	12月1日	会議名	地域創り啓発上映会			参加者数	85名
	日時	12月7日	会議名	事業啓発研修会			参加者数	48名
各 種 会 議 参 加 実 績 報 告	出席回数							
	日時	4月18日	会議名	緑・若葉区自立支援協議会				
	日時	6月5日	会議名	登録者支援会議				
	日時	7月13日	会議名	登録者支援会議				
	日時	10月11日	会議名	相談支援体制整備に係る市町村会議				
	日時	11月27日	会議名	千葉市地域自立支援協議会事務局会議				
その他の活動・本事業の効果・コーディネーターの意見等								
今年度7名が新規登録があった。ほとんどが委託相談事業所からのケースとなるが、リスク管理だけの引継ぎとなり、実際に本人や家族の相談支援については、これまでの経過や関係性の中で実質的に委託相談事業者が関わっていくことになってしまっている。相談事業の特質上やむを得ないと考えるが、効率よく対応するためには、今後さらなる委託相談事業所との一体的な取組が重要になると思われる。親亡き後の生活の教化に関しては、育成会との連携の中で当該事業の啓発を行い、その事を通じて新たな高齢の母親と障害のある本人の登録などに繋がることとなった。人材育成研修については、制度だけの利用に留まらず、可能な限りインフォーマルな資源の活用や立上げなどに向けた意識の高い人材の育成に努めたが、開催回数を含め継続と言った視点でも大きな課題が残るものと考えている。様々な課題クリアーの条件としてマンパワーの不足は否めない。								